

水位操作WG意見書 目次(案)

- 1 はじめに
- 2 琵琶湖および淀川本来の水位変動について
  - ① 琵琶湖—淀川水系の(生物相の)特性
  - ② 琵琶湖本来の水位変動と現状  
地質時代、歴史時代、洗堰の無かった時代、洗堰設置後、操作規則制定後
  - ③ 淀川本来の水位変動と現状  
・年間の水位変動幅が小さくなっている(2000 tまでは水位が一定のままで、フラッシュアウトがほとんどおこっていない。)
- 3 琵琶湖および淀川の水位操作に関するこれまでの経緯
- 4 水位操作の試行およびその評価(河川管理者の評価、資料提供依頼済み)
  - ① 琵琶湖水位
  - ② 淀川水位(淀川大堰、枚方)
- 5 水位操作のあるべき姿についての考え方と問題点(今後、水位操作WGで要議論)
  - ① 環境(資料1)  
基本的な考え方  
「自然が自然をつくるのを助ける、川が川をつくるのを助ける」
    - ・原風景の解明と目標種、指標種の段階的設定による事業評価  
琵琶湖：琵琶湖淀川水系の固有魚介類(ニゴロブナ、ホンモロコ等)、原野の植物、日本海(寒冷地性)植物、海浜性植物  
淀川：淀川の特徴を反映する在来魚介類(アユモドキ、イタセンパラ、ドブガイ等)、原野の植物(鶺鴒のノウルシ等)、日本海(寒冷地性)植物
    - ・種の遺伝的多様性への配慮
  - ② 治水(資料4, 11, 12, 13, 25)  
基本的な考え方  
「これまでの治水のやり方をいくら進めても、被害は小さくならない。  
→防災から減災へ」
    - ・環境に配慮した水位操作に変更することによる治水リスク増大を如何に解消するか
    - ・内水排除の能力増強(ポンプ機能で何cmくらいの低下能力可能か)+瀬田川の流下能力増大
  - ③ 利水・利用(資料4, 14)  
基本的な考え方
- 6 今後の水位操作試行の進め方と検討すべき課題(今後、水位操作WGで要議論)  
(資料5)